

東邦大学医療センター大森病院産婦人科研修プログラムの概要

専門研修はどのようにおこなわれるのか

- 東邦大学医療センター大森病院産婦人科研修プログラムでは、基幹施設である東邦大学医療センター大森病院での研修を主とし、各連携施設においてそれぞれの特色を活かした研修をおこなえるようなプログラムとしている。
- 専門研修の1年目は、原則として多様な症例を経験できる東邦大学医療センター大森病院（以下、大森病院）で研修を行い、2年目以後に連携施設で研修を行う。

年目に、産婦人科診療の基本を体得することで、地域医療や専門性に富んだ各連携施設での研修を可能としている。当プログラムに属する連携施設は、いずれも大森病院に匹敵する豊富な症例数および指導医による研修体制を有する地域の中核病院で、婦人科手術件数の多い施設や分娩数の多い施設など、それぞれ特徴がある。結婚・妊娠・出産など、専攻医一人一人の事情にも対応してローテーションを決めている。なお、地域医療を経験できる施設で少なくとも1度は研修を行う必要がある。

専攻医の到達目標

<修得すべき知識・技能・態度など>

- 本研修プログラムを通じて、産婦人科専門医として一人で判断し対応することができる知識と技能を修得し、また、上級医となるべく態度を身につけることを目標としている。本プログラムの特徴として、基幹病院である

大森病院において一次から三次医療までの幅広い医療技術の習得を行うと共に、2年目、3年目と段階的に経験を積むと共に、連携施設での専門的な研修や地域医療研修を行い、深く、かつ幅広い能力が身につくことを目的としている。

- 専門研修 1年目：内診、直腸診、経膈超音波検査、経腹超音波検査、胎児心拍数モニタリングの解釈ができるようになる。正常分娩、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術を指導医・上級医の指導のもとで実施することができる。指導医・上級医の指導のもとで、ローリスク妊婦の診療ができるようになる。
- 専門研修 2年目：妊婦健診および婦人科の一般外来ができるようになる。正常分娩を一人で取り扱える。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については指導医・上級医に確実に相談できるようになる。指導医・上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術ができる。指導医・上級医の指導のもとで患者・家族からのICを取得できるようになる。
- 専門研修 3年目：3年目には専攻医の修了要件全てを満たす研修を行う。帝王切開の適応を一人で判断できるようになる。通常の帝王切開であれば専攻医と一緒にできるようになる。指導医・上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開や、癒着があるなどやや困難な症例であっても腹式単純子宮全摘術ができる。悪性腫瘍手術の手技を理解して助手ができるようになる。一人で患者・家族からのICを取得できるようになる。

<各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得>

- 基幹施設である大森病院産婦人科には専用のカンファレンス室および専攻医の控室があり、また、付属のメディアセンターには多数の最新の図書を保管している。インターネットにより国内外のほとんどの論文がフルテキストで入手可能である。
- 毎週月・火・木・金が手術日である。月曜日 14 時から手術症例を中心にカンファレンスを行い、病態・診断・治療計画作成の理論を学ぶ。火曜日 16 時 30 分からは NICU と合同の周産期カンファレンス、17 時 30 分からは放射線科との画像カンファレンスを行い、他診療科と連携した治療計画を行う。また、火曜日の 8 時からリプロダクションセンターカンファレンス、時から周産期班カンファレンス、木曜 16 時からキャンサーボードによる各専門分野のカンファレンスを行い、専門的知識を深める。
- 月曜日 8 時から抄読会を行い、最新の医学的知識の吸収ができるように務めている。
- 研修プログラム中には、日本産科婦人科学会、関東連合産科婦人科学会、東京産婦人科学会などの学術集会への専攻医の積極的な参加と学会発表を奨励しており、主に症例発表の経験を複数経験し、同時に論文作成についての知識と技術が習得できるような指導体制をとっている。

<学問的姿勢>

- 医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習する。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画することで解決しようとする姿勢を身につける。学会に積極的

に参加し、基礎的あるいは臨床的研究成果を発表する。得られた成果は論文として発表して、公に広めると共に批評を受ける姿勢を身につける。

医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性

- 産婦人科専門医制度は患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成して、国民の健康に資する事を目的とする。産婦人科領域の専門的診療能力に加え、産婦人科専門医となるにあたり、医師として必要な基本的診療能力（コアコンピテンシー）を習得することも重要である。
- 医療安全、医療倫理、感染対策の講習会を各1単位（60分）ずつ受講することが修了要件(整備基準項目53)に含まれている。大森病院では、医療安全、医療倫理、感染対策に関する講習会が定期的に行われている。また、日本産科婦人科学会、関東連合産科婦人科学会、東京産婦人科学会などの学会への参加を積極的に奨励しているため、大森病院での研修期間中に、必ずそれらの講習会を受講することができる。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

<年次毎の研修計画>

門研修 1年目：内診、直腸診、経膈超音波検査、経腹超音波検査、胎児心拍数モニタリングの解釈ができるようになる。正常分娩、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術を指導医・上級医の指導のもとで実施することができる。指導医・上級医の指導のもとで、ローリスク妊婦の妊婦健診および婦人科の一般外来ができるようになる。

門研修 2年目：妊婦健診および婦人科の一般外来ができるようになる。正常分娩を一人で取り扱える。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については指導医・上級医に確実に相談できるようになる。指導医・上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術ができる。指導医・上級医の指導のもとで患者・家族からの IC を取得できるようになる。

門研修 3年目：3年目には専攻医の修了要件全てを満たす研修を行う（専門研修プログラム整備基準 項目 51 参照）。帝王切開の適応を一人で判断できるようになる。通常の帝王切開であれば専攻医と一緒にできるようになる。指導医・上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開や、癒着があるなどやや困難な症例であっても腹式単純子宮全摘術ができる。悪性腫瘍手術の手技を理解して助手ができるようになる。一人で患者・家族からの IC を取得できるようになる。

<研修施設群と研修プログラム>

- 基幹施設：東邦大学医療センター大森病院
- 連携施設：東邦大学医療センター佐倉病院、東邦大学医療センター大橋病院、聖隷浜松病院、上尾中央総合病院、国立成育医療研究センター病院、東京品川病院、沖縄県立八重山病院、

<地域医療について>

- 当プログラムの研修施設群の中で、地域医療を経験できる施設は以下の通り。いずれも地域の中核的病院であり、症例数も豊富である。
- 連携施設：上尾中央総合病院、沖縄県立八重山病院
- これらの病院はいずれも産婦人科医が不足している地域にあり、地域の強い要望と信頼のもとに、大森病院産婦人科から医師を派遣し、地域医療を

高い水準で守ってきた。当プログラムの専攻医はこれらの病院のいずれかで少なくとも一度は研修を行い、外来診療、夜間当直、救急診療、病診連携、病病連携などを通じて地域医療を経験する。いずれの施設にも指導医が在籍し、研修体制は整っている。

- 本プログラムでは、特に沖縄県立八重山病院での短期研修を推奨しており、医師不足の地域での唯一の産婦人科医療施設において、地域医療への貢献を通じて実りある研修ができることを期待している。

専門研修の評価

< 形成的評価（到達度評価） >

□ 研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものである。当プログラムでは、少なくとも 12 か月に 1 度は専攻医が研修目標の達成度および態度および技能について Web 上で日本産科婦人科学会が提供する産婦人科研修管理システムに記録し、指導医がチェックする。態度についての評価は自己評価に加えて、指導医による評価（指導医あるいは施設毎の責任者により聴取された看護師長などの他職種による評価を含む）がなされる。なお、これらの評価は、施設を異動する時にも行う。それらの内容はプログラム管理委員会に報告され、専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となる。

修了判定

< 総括的評価 >

- 専門医認定申請年（3 年目）の 3 月末時点での研修記録および評価に基づき、研修修了を判定するためのものである（修了要件は整備基準項目

。自己・指導医による評価に加えて、手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認する。他職種評価として看護師長などの医師以外のメディカルスタッフ1名以上から評価も受けるようにする。

- 専攻医は専門医認定申請年の4月中旬までに、研修管理システム上で研修記録、到達度評価等の登録を完了して下さい。研修プログラム管理委員会は5月15日までに修了判定を行い、研修管理システム上で登録する。専攻医は研修管理システム上において専門医認定試験受験の申請を行う。